

SDGs を意識した学生による岐阜県の花と緑のある 豊かな暮らしの提案への取り組みⅡ

市橋 美穂・望月 武・松本 真起・太田 朋華・後藤 将・堀江 有加里
棚橋 亜矢子・木村 孝子・平光 美津子・デュアー 貴子
(東海学院大学)

要 約

令和3年度から行われている“花と緑のある豊かな暮らしの提案への取り組み”についての第二報を報告する。本年、将来を担う若い世代を対象とした「令和4年度花き振興企画コンペティション」が開催され、東海学院大学管理栄養学科（以下、本学科）の学生2チームが最終選考に進んだ。学生たちはSDGsを意識した岐阜県の花きを活用した花と緑のある豊かな暮らしの提案を行った。また提案された「岐阜県産花きで新商品！フラワーモクテル」の企画は、産学官連携の下、商品化事業を開始したところである。

キーワード：花き、SDGs、産学官連携

1. はじめに

岐阜県では、平成26年10月に全国に先駆けて制定した「岐阜県花きの振興に関する条例」の理念を具現化すべく、「清流の国ぎふ花き振興計画」を策定し、花きの振興に係る各種施策に取り組んでいる。その中では若年層への活動の普及・拡大を1つの課題として捉えている。令和3年4月には産学官の異業種の壁を越えて連携し「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」を設立し、異業種連携による花き業界の発展に取り組んでいる¹⁾。令和3年10月に「令和3年度岐阜県花き振興企画コンペティション」が開催され、大学生や高校生等を対象に花きを活用した花や緑のある豊かな生活の実現に向けたアイデアを募集した。前報ではこの公募に本学科の学生8チームが応募し、一次審査を通過した3チームが最終審査に進み、プレゼンテーションを行った結果、1チームが優秀賞（ぎふ花と緑の振興コンソーシアム理事長賞）を受賞したことを報告した。また岐阜県や関連企業等のご協力の下、3つの提案のうち2つの提案を実現することができた²⁾。

同企画は令和4年4月15日～7月8日に応募があり、9月2日に開催された「令和4年度岐阜県花き振興企画コンペティション」では、令和3年度に引き続き若い世代から花きを活用した花や緑のある豊かな生活の実現に向けたアイデアを昨年の企画を応用しながら提案することにした。本学科の学生3チームが応募し、2チ

ームが最終審査にてプレゼンテーションを行った。どちらのチームの提案もSDGsが意識された豊かな生活に関する商品の提案であった。最終審査に進んだ2チームの提案内容について以下に詳細を報告する。

2. 提案した事業計画

学生が応募した提案の中で最終審査に進んだ2チーム「岐阜県産花きで新商品！フラワーモクテル」「岐阜県産花きで新商品！「岐阜県産花き美濃和紙」で豊かな暮らしを」の企画タイトルをそれぞれ下記(1)(2)に示し、審査視点ごとに説明する。また、それぞれのプレゼンテーションの様子を図1、図2に示す。

(1) 岐阜県産花きで新商品！フラワーモクテル

1) 事業コンセプト

イギリスで生まれたノンアルコールカクテルであるモクテルを、エディブルフラワーのロス削減を踏まえながら、岐阜県産の果物や茶葉で味わい深く、さらに花きによるデコレーションで岐阜県の新たな商品・観光資源とする。その華やかさと話題性、斬新さで新たな花きの消費拡大を図る。

2) 事業背景ビジョン

フォトジェニックなエディブルフラワーの市場規模は、SNSの普及によりカフェや洋菓子店を中心に近年増加傾向にある³⁾。少量であっても存在感のあるエディブルフラワーの利用価値は美しさにあり、規格に当てはま

らないものは利用価値が低下する。令和3年度に提案したエディブルフラワーを活用した料理の商品化に取り組む中で、規格外となったエディブルフラワーのロス削減という課題について取り組みたいという思いから、この事業を提案した。規格外となり出荷できない花をシロップ漬けやジャム類などに加工し、岐阜県産の果物や茶などの特産品と合わせフラワーモクテルに活用することで、エディブルフラワーロス削減に取り組むつつ、色や香りを楽しめる新たな商品になると考えた。またグラスの周りを花きで美しくコーディネートすることで、花きの販売促進に貢献し、より美しく話題性の高いモクテルに仕上げることができると考えた。

3) 商品のニーズ

エディブルフラワーロス削減に貢献でき、花きの消費拡大を図ることができる。また新たな観光資源となるため、観光客を中心に岐阜県の季節の花きを目と香りで楽しんでもらい、その斬新さと話題性で思い出に残る旅づくりに貢献できる。

4) 市場・マーケティング戦略

ノンアルコール飲料の市場については令和4年～令和12年にかけて、世界市場規模は6.9%以上の成長率が見込まれ⁴⁾、日本でもノンアルコール飲料市場は平成27年から6年連続で拡大し、平成22年から令和2年にかけての10年間における販売数規模での成長率は約220%であった⁵⁾。近年は市場の変化に伴いノンアルコールの梅酒・ワイン・ウイスキーなど様々な種類が発売されている。このことから日本でもビールだけではない新たなノンアルコール商品を消費者が求めている傾向にあることが推定される。モクテルブームの背景には、このようにノンアルコール飲料が支持され市場が急成長していることや、新型コロナウイルスによる生活スタイル変化などによる健康志向の高まりなどが影響していると言われている。これらのことを踏まえ、フラワーモクテルは新たなノンアルコール飲料として市場価値が見込まれると考える。

市場：18～29歳の若い世代

価格：平均的なマーケット

販売ルート：ドリンク提供可能な協力店

販売促進：

SNSへの投稿や観光協会の連携により販売促進を図る

事業全体の優位性：

産学官連携の取り組みであること

競合対策：

岐阜県のそれぞれの地域の果物や花などの特産品

を用いたオリジナルカクテルを地域で開発し、岐阜県内の「フラワーモクテル巡り」などの企画で独自性をPRする。海外観光客向けに英語で配信する。

リスクと対応策：

管理栄養学科の専門性を活かし、エディブルフラワーの味わいについて分析型官能評価を行うことで、シロップ抽出後の花きの味を分析、結果を提示し、情報提供を行う。

5) 今後の事業展開

岐阜県産エディブルフラワーを用いたモクテルを大学生による若い視点から考案する。採用後にはその店舗をモデル事業とし、SNSでご当地モクテルの情報を配信することで話題性を高める。また好みのエディブルフラワーをモクテルに生ける「飲む生け花展」という体験型イベントにおいて試飲をしてもらい、定期的に開催することで岐阜県産花きやエディブルフラワーの需要拡大を目指す。



図1 「岐阜県産花きで新商品！フラワーモクテル」プレゼンテーションの様子

(2) 岐阜県産花きで新商品！「岐阜県産花き美濃和紙」で豊かな暮らしを

1) 事業コンセプト

岐阜県産の季節の花きを利用した美濃和紙を新たな観光資源として提案し、フラワーロス削減に貢献するとともに、季節の花き入り美濃和紙を用いた豊かな暮らしの提案及び花きの利用促進を図る。

2) 事業背景ビジョン

花きは食品類よりも在庫管理が厳しく、見た目や生鮮さこそが重要視されるため、規格外となるフラワーロスが発生することが問題視されている。さらに新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けイベント装花のニー

ズが激減していることからフラワーロス問題は深刻である⁶⁾。

日本最古の紙である美濃和紙は薄く、柔らかな風合いでありながら耐久性を兼ね備えており、和傘などの伝統品だけでなくインテリアやアクセサリーなど様々なものに利用されている。また、その品質の高さから国宝級の文化財の修復に活用され、令和3年に開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会の表彰状にも美濃手漉き和紙が採用されている⁷⁾。美濃和紙は古くからなじみがある地域の素材であるとともに、日本が世界に誇る伝統工芸品である。

そこで、フラワーロスとなる花きを用いて「岐阜県産花き美濃和紙」を商品化し、それを利用して和傘やアクセサリーなどに応用していく。そして花きと美濃和紙で食卓空間を演出できるようなランチョンマット、コースター、懐紙などへの利用を考えた。地域の伝統素材で食卓空間を彩ることでおもてなしの心を感じられるだけでなく、フラワーロス削減にも貢献できる「岐阜県産花き美濃和紙」で心にも環境にも優しい豊かな暮らしの演出を提案する。さらに、岐阜県の伝統工芸品の良さを海外にもより広げていくため、英語を取り入れて SNS 配信をしたり、若い世代から地域の伝統を県内各地に配信したり、大学内のイベントでこれらの商品を用いた食卓空間の演出や商品の販売をしたいと考えた。

3) 商品のニーズ

岐阜県産の季節の花きを取り入れた美濃和紙の見た目の華やかさと美しさを楽しむことで観光客の土産品となるだけでなく、華やかな美濃和紙を用いた日常小物を生活に取り入れてもらうことで日常生活を豊かにできる。例えば花きで彩られた美濃和紙を用いたはがきやメッセージカードは、普段文通をしない人やデジタル化によって使用頻度が減少した人でも紙の美しさに感動して使用する機会が生まれ、豊かな交流のきっかけ作りを提供できる。さらに、岐阜県の伝統工芸やフラワーロスについて認知の普及を図れる機会となる。

4) 市場・マーケティング戦略

日本製紙連合会資料によると、令和3年の紙類のメーカー出荷量(国内出荷+輸出)は前年比1.6%増の2,331万トンであり、経済の持ち直しや脱プラスチック思考による紙製品への移行によって市場は回復することが予想されている。令和4年度の出荷量予測は前年比4.9%増の2,445万トンである⁸⁾。

一方、令和2年の経済産業省の工業統計によれば、岐阜

県の「パルプ・紙・紙加工品」の出荷額は年間2億9,849万円で、そのうち「手すき和紙」においての出荷額は5%程度である⁹⁾。美濃和紙はユネスコ無形文化遺産にも登録され国際的評価が高まっているが、作り手の高齢化や後継者不足などによる伝統技能の伝承問題に加え原材料不足などの課題もあり、今後の生産量の減少が懸念される。

そこで、和紙に関する知識や関心が低いと思われる若い世代をターゲットに、同世代の大学生から美濃和紙を使用した華やかな商品やそれらを活用した暮らしを提案し、SNS等で発信していくことで関心を高め、需要の増加を図る。

市場：18～29歳の若い世代

価格：平均的なマーケットより少し低め

販売ルート：美濃和紙取扱店

販売促進：

SNS への投稿や体験イベントを通じて若い世代や外国人への販売促進を図る

事業全体の優位性：

産学官連携の取り組みであること

5) 今後の事業展開

「岐阜県産花き美濃和紙」の商品化に向けて、フラワーロスとなる花きの中からどのような花きを美濃和紙に使用できるか美濃和紙の職人と相談して検討していく。完成した商品だけでなく、商品化に向けて大学生が美濃和紙について学んでいる姿なども SNS で配信していくことで、若い世代を中心に関心を持ってもらえるようにする。また、SNS での配信は日本語だけでなく英語でも行うことで、海外観光客の土産品となるよう商品の普及・販売促進を図る。

「岐阜県産花き美濃和紙」完成後は、和紙をどのような製品に利用できるか美濃和紙のクラフト作家と相談し商品化していく。また持続的に利用できるよう季節ごとの花きを用いた和紙を制作し、季節の伝統行事に合わせた商品を展開できるよう提案していく。

さらに本学科でのイベントや保有しているキッチンカーを用いて、開発した商品や「岐阜県産花き美濃和紙」を利用した豊かな食卓空間の演出を展開することで、販売だけでなく岐阜県産花きや美濃和紙の伝統工芸についても県内各地に広めてゆく。



図2 「岐阜県産花きで新商品！「岐阜県産花き美濃和紙」で豊かな暮らしを」プレゼンテーションの様子



図4 モクテル試飲会の様子

3. おわりに

今回応募した3チームのうち2チームが最終審査に進み、学生は各企画ごとにプレゼンテーションを行い、2チームとも入賞することができた(図3)。また、「岐阜県産花きで新商品！フラワーモクテル」の企画は、産学官連携の下、事業を開始していくこととなった。令和4年12月5日には関係者を招き、考案されたモクテルの試飲会が開催され、試飲会を経て「ローズトニック」と「ソルティローズ」の2品の商品化が決定した(図4、図5)。「ローズトニック」は道の駅美濃白川にて、「ソルティローズ」は岐阜グランドホテルにて販売・提供される予定である。併せて令和5年3月28日には岐阜グランドホテルにて完成報告会を開催する予定であり、ほかのモクテルも順次商品化していく。また、2月9日にぎふ花と緑の振興コンソーシアム研修会場にて行われた中間報告会では、特別賞を受賞することができた。

令和3年度に引き続き、学生は環境問題や地域の魅力など様々な事柄に触れながら企画を考えることができた。令和4年度も学生たちは自分たちの企画した事業の商品化に向けて取り組んでいくことで、さらなる問題解決能力やコミュニケーション能力などの社会的スキルを身に付けることができる機会になると考える。



図3 受賞の様子



図5 試飲会にて提供されたモクテルの試作品

謝辞

本提案事業に対しご支援とご協力を賜りました岐阜県様に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 清流の国ぎふ花き振興計画(第2期)
<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/237246.pdf> (最終閲覧日 2022/11/30)
- 2) 川瀬麻緒 他 SDGs を意識した学生による岐阜県の花と緑のある豊かな暮らしの提案への取り組み
 東海学院大学研究年報 第7号 2022年3月発行
- 3) 農林水産省 平成26年度～令和2年度 地域特産野菜生産状況 調査結果 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tokusan_yasai/ (最終閲覧日 2022/9/30)
- 4) レポートオーシャン「NON-alcoholic Drinks Market Size, Share & Trends Analysis」より 2022/02/23 発行
- 5) サントリーホールディングス株式会社「ノンアルコール飲料レポート2021」より 2021/10/12 発表
https://www.suntory.co.jp/news/article/mt_items/14008-1.pdf (最終閲覧日 2022/9/30)

- 6) 農林水産省 花き振興コーナー「花きの現状について」
令和4年2月発表
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-30.pdf> (最終閲覧日 2022/9/30)
- 7) 外務省 グローカル外交ネット「美濃和紙について」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/page23_003559.html (最終閲覧日 2022/9/30)
- 8) 日本製紙連合会 製紙産業の現状 発表資料より
<https://www.jpa.gr.jp/states/paper/index.html>
(最終閲覧日 2022/9/30)
- 9) 経済産業省 2020年地域別統計表より
<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougyo/result-2/r02/kakuho/chiiki/index.html>
(最終閲覧日 2022/9/30)

**A Plan Based on SDGs by
University Students
for a Lifestyle in Gifu Prefecture
Enlivened by Greenery and
Flowers II .**

**ICHIHASHI Miho,
MOCHIZUKI Takeru,
MATSUMOTO Maki, OTA Tomoka,
GOTO Sho, HORIE Yukari,
TANAHASHI Ayako, KIMURA Takako,
HIRAMITSU Mitsuko
and DEWAR Takako**